

6 研修生のページ

研修を始めて

育成調教技術者養成研修 第25期生

BTCでは全寮制による育成調教技術者の養成研修を行っています。今号では本年4月に入講した研修生から、これまで過ごしてきた3カ月間の感想と今後の抱負について寄稿いただきました。この1年間でより多くのことを学んでくれることを期待しています。

寮長を務め始めて3ヶ月

伊東 哲也

育成調教技術者養成研修第25期生の研修が4月に開講して、間もなく3ヶ月が経ちます。私たち、25期生は開講時16名、その全員が男子でありましたが、最初の一ヶ月で2名が辞めてしまい現在は14名で訓練に励んでいます。

私は寮長という仕事を仰せ付きり、研修生の橋渡し役を任されています。私は乗馬経験も無いので自分が訓練に付いていくのに精一杯で、その仕事が全うできているかわかりませんが、副寮長をはじめ他の研修生や教官にサポートして頂いて、今のところ大きな問題もなく、寮では和気あいあいと作業は協力して、騎乗技術では切磋琢磨し合える理想的な関係を築くことができている。

この3ヶ月間はあっという間に過ぎましたが、その間に確実に私達は成長してきました。騎乗訓練は最初の段階では、騎乗技術のレベルに合わせて3班に分けて行っていました。私は未経験者を中心としたC班で、ロング場での常歩。軽速歩からスタートしました。その後2週間程で覆馬場でのスラロームや駈歩をはじめ、1ヶ月経つ頃にはA班、B班に合流して全員で駈歩を交えた部班運動が行えるまでになりました。現在はBTC調教場の屋内坂路や芝馬場をお借りしてハロン20~25秒程度のキャンターや、800mトラックでの二騎併走に取り組んでいます。

通常の訓練の合間に様々な課外研修やイベントもありました。山菜採りや、えりも岬見学、アポイ登山では雄大な北海道の自然に触れる事が出来ました。特にアポイ登山は大変だったけど、下って来るときの日高の雄大な景色は疲れを癒してくれました。

牧場見学では、種牡馬や休養中のダービー出走馬を見せて頂いたのが思い出になったのと共に、牧場の仕事の大変さと責任の重さを改めて知りました。

浦河町民乗馬大会に出場したのも良い思い出です。皆さんは普段の訓練ではやらない障害飛越に最初戸惑っていましたが、本番では研修生から3名の優勝者を出すことができ、とても盛り上がりました。

今は1ヶ月後に迫った浦河競馬祭に向けて研修生および教官が一丸となって出走馬の調整に取り組んでいるので、必ず良い結果が出ると信じています。

この3ヶ月間は本当にあっという間でした。私達、研修生に残された時間はあと9ヶ月間しかないのです。その僅かな時間で一人前になるのは簡単なことではないと思います。

しかし、一年後には皆がどこかの牧場へ就職して一人前のホースマンとして働かなければなりません。その為には、これからの9ヶ月間をどう過ごすのかがとても肝心なのです。

今まで以上に厩舎作業も騎乗訓練も学科も頑張っ、一年後にはBTCの卒業生として恥ずかしくないようなホースマンになっていた

いと思っています。



朝、一日のはじまり、寮前に全員集合し出発

向上心を忘れずに

吉元 晃彦

研修が始まってあっという間に3ヶ月が経ちました。今はだいぶ慣れて来ましたが初めの頃は、覚える事は多いし作業も初めての事が多くて時間がかかるし大変でした。

騎乗訓練も最初は、馬に乗っている時間よりも馬に乗る準備をしている時間の方が長い位でしたが、すぐに慣れて1ヶ月もしないうちに800mの走路で騎乗できるようになりました。ほとんどの人が乗馬未経験者か未経験に近い状態で入学したので、凄い進歩だと思います。今では、走路で併せ馬をしたり、BTC調教場の屋内坂路や屋内直線、直線1,600mのダートコースなど本格的な調教施設を使用して訓練を行えるようになりました。

この研修に参加するまでは、想像もつかないような調教施設で馬に乗る事ができ毎日の騎乗が楽しいです。

6月からは、7月の終わりに行われる「浦河競馬祭」という草競馬に向けて、馬の調教、管理から始まりました。調教は今までの訓練と違って本格的な競走馬の調教のように、タイムを指示されたり、時には1ハロン1.2秒というような速い調教にも騎乗させてもらえるようになり、とてもプレッシャーのかかる騎乗ですが、この調教に何回か騎乗してるうちに、今まで競

走馬の調教という自分の中で憧れだったものが、少し現実的になってきた気がします。

その他の研修では、実技以外に学科もあります。講義では教官や獣医師の先生方が馬を取り扱う上での注意や、馬の病気についてなど、様々な授業があり、馬の仕事をする上でとても役に立つ知識が身についていると思います。学科項目ごとにテストがありますが、今のところは良い点がとれているので、これからも実技だけでなく学科も頑張りたいです。

8月に入るとすぐに実際に牧場に行つての実習が始まります。この3ヶ月で学んだ事が現場でどれだけ通用するのか不安な部分もありますが、研修では学ぶ事が出来ないものが学べると思うし、1年後、牧場に就職することになるので、実際の牧場の仕事がどのようなものが体験したいです。

まだ、1年の研修期間の中の3ヶ月しか経っていないので学びたい事がたくさんあります。今はまだホースマンとしての自分の中でのビジョンが決まっていないのですが、どこの牧場に就職しても、その牧場で必要とされる人材になれるように、技術、知識を身に付けるために、残りの研修期間中も常に向上心を持って頑張りたいです。



シュミレータを使った実技前の練習

一人前の馬乗りを目指して

久保 亮太

私がこの研修を受けようと思った理由は、馬を扱う上で正しい知識と技術を身に付けようと考えたからです。

それまで大学時代にも少しは馬に関わっていましたが、それだけでは駄目だと実感していました。実際に研修が始まると、まず馬の引き方や手入れの方法、放牧の仕方を基本から教わることができ、これまでの自分がいかにいい加減に馬を扱ってきたかという事を痛感し、恥ずかしくなりました。

教官から乗馬の馬と競走馬を目指す若馬は違うんだ、乗馬のやり方は忘れるようにと言われ、基本の大切さを改めて知りました。初めの2週間程は、馬には乗らず、厩舎作業や馬の取り扱い方を学びました。朝5時に起きて作業を行い、1日中体を動かしていたため少しきつく、これから1年間やっていけるのかと不安になる事もありましたが、新しい知識が増えていき、馬に触れている内にその苦しさよりも楽しさの方が勝ち、とても充実した生活を送れていると感じるようになってきました。

騎乗訓練が始まると、最初はそれぞれのレベルに合わせた訓練を行い、初めのうちはきつかったのですが、それまで出来なかつたり、苦労していた事が少しずつ確実にできるようになって行くのを感じる事が出来て、楽しく訓練に参加することが出来ました。

しばらくして、合同での本格的な訓練が始まると、初期の訓練とは違いその日の内容についていくので必死になったためミスも目立つようになり、自分はこれから1年間この訓練についていく事が出来るのだろうか少し心配になったりもしました。

しかし、教官達が教えて下さることを一生懸命にやっていると、少しずつ出来るようになり、2ヶ月もすると初期の頃と同様に毎日楽しく訓練を行えるようになりました。

この研修で騎乗訓練だけでは無く馬の健康や放牧地の管理、馬具の種類やそれぞれ専門の講師の方が授業をしてくれるのでより深い知識を得る事ができ、とても勉強になりました。このような事は普通の牧場ではなかなか得る事ができない事なので、とても良い経験になりました。

その他にも牧場やトレーニングセールなどの見学もあり、どれも大変勉強になることばかりでした。特に牧場見学では、各牧場の特色のある管理方法や調教方法を間近に見る事ができ、自分が研修を終えて牧場に就職してからの様子を想像することができ、大変参考になりました。

この研修が始まってから3ヶ月あまりが経ちましたが、あっという間の3ヶ月間でこのペースでは1年もあっという間に終わってしまうのだと感じるようになってきました。まだまだ勉強したり、身に付けないといけない技術が沢山あり、1年間でできるようになるのかと不安になる事もありますが、残りの9ヶ月間も今までように、一生懸命に教官が教えて下さることを吸収して一人前の馬乗りになれるように努力していきたいと思いました。



トレーニングセール見学風景

早く一人前の乗り役に

浪網 世治

馬の育成に携わり将来活躍する馬を育ててみたい、そういう思いから馬の事を基礎から学ぼうとBTCに入学しました。

私は、乗馬歴も無い未経験者だったので最初の頃は、馬を見る。触れる。乗る事。全てが新鮮でした。

4月は、とにかく厩舎の作業を覚える事が大変で、時間をかけずに出来るようになるまで、まともな馬装が出来る様になるまでとても時間はかかりましたが何度も練習して、皆スムーズに出来る様になりました。

5月は騎乗訓練もびっしり、1日2鞍で速歩から駈歩、走路での訓練にも入りました。この頃は、1番悩んだ時で、スタイル姿勢がうまく出来ないため、乗るたびに落ち込んでしまいました。それでも教官に注意された点を寮にあるシミュレーターで何度も練習し、スタイル姿勢もとれるようになってきました。

6月に入ると騎乗訓練はBTC調教場の施設で乗る様になり、牧場見学も始まりました。BTC施設での騎乗は一般の牧場の方が沢山来られている中での騎乗訓練なので、迷惑を掛けず決められた事をやる、集中して出来るので、このBTC施設内での騎乗は自分にとって大きいものになりました。

牧場見学は浦河近辺、静内、門別と沢山の牧場を見学しました。

育成から生産までやっている牧場もあったり、同じ育成牧場でも育成方法が牧場によって違うので、とても勉強になりました。自分たちの先輩、BTC卒業生も色々な牧場で活躍していて自分も一人前の乗り役になれるように頑張ろうと思いました。

私は将来、馬の馴致から育成に携わりたいとっていて、その為にBTCで学べる事を残り9ヶ月間でしっかり学んで生かしていきたいです。

今は、とても充実した研修生活を送っていて、騎乗も楽しい中で学んでいますし、学科も難しいのですが、しっかりと覚えていきたいです。

このBTCという恵まれた環境で研修を受けている事を自分は凄い幸せだと思っているので、騎乗訓練も1鞍1鞍を大切に乗り、卒業する時には周りに迷惑を掛ける事のない一人前の乗り役になれるように、日々訓練していきたいです。

馬の学科、厩舎の作業等もしっかり学び将来に生かしていきたいと思います。



各写真とも個人のレベルに合わせた初騎乗

「見つける・感じる・考える」という姿勢

加藤 明

僕にとって、育成調教技術者養成研修のこれまでの3ヶ月間には馬の技術から人間としての心の面まで色々な事を感じるとともに、学ぶ事が出来たと思います。

中でも、「見つける・感じる・考える」という事の大切さと、そのことを実践していくという事を改めて、考えさせられたような気がします。

例えば、騎乗の時、その馬の特徴や癖、しぐさなどをいち早く、見つけたり感じ取ったりして、その後その特徴をどう活かすか、または癖に対してどういうふうに対応するのかを考えます。そして、考えた答えを実行してみて、失敗したらなぜ駄目だったのか、何がいけなかったのか理由を考えてみたり、成功したとしても、なぜ成功する事が出来たのかを考えることをするようにしています。

この、「見つける・感じる・考える」は、他の色々な事にも、言える事だと思います。

人が自分に対しての注意を喚起していたり、何かを遠回しに言っている時などに、相手の話をしている内容が原因だったり、何を伝えようとしているのかを、よく噛み砕いて考えて、今、自分は何をどういうふうにとどのタイミングで言わなければならないのか、もしくは、どういう行動をしなければならないのか「考えて」考えた結果などを実行（言ったり）してみて、その実行した答えについて、相手がどういうふうに思っているのかを「感じる」事などをしてまたその感じた事についても色々と考えます。

この「見つける・感じる・考える」という事の必要性は常にどんな時でも、どんな社会でも共通している事なので、とても貴重な勉強が出来たと思います。

その他にも、「物事を言うにも、言い方とタイミング」だという事、物を頼むにしても、言い方ひとつで相手がその仕事を気持ちよくしてくれたり、そうではなかったり、自分では何気ない一言でモチベーションを上げたり下

げたりしてしまう可能性があるので、今も少しずつ考えながらやっています。

まだまだ他にも色々この研修で学んだ事は、ここに書ききれない程たくさんあります。残りの研修の期間はあと9ヶ月間しかありませんが、残りの9ヶ月間を無駄にしないように、この3ヶ月で学んだ事を、もっと深くそして重みのあるものにしたいと思います。

これから牧場実習やBTC以外の施設の見学や実習、馴致など他にもいっぱい違った場面などで学ぶ機会があるので、学んでいきたいです。

そしてこの研修の日々を、僕にとって一層充実したものにしていきたいです。